

栗橋行政センター、コミセンの建設を早急に



田村 栄子 議員

市民の政治を進める会

Q 旧栗橋町役場は除却後、行政センター、コミセン、図書室がある栗橋市民プラザとして2024年に新築予定であった。しかし、コミセンを除いた行政センターに計画を変えた。建設を2030年から2038年（第2期）に延期した。理由を伺う。

A （仮称）防災公園管理棟に市民活動用の集会室等をいれ、第1期に整備することになり、市民プラザの整備計画は止めた。第2期をめぐりに行政センター、図書室、集会室の機能のある新栗橋行政センターを建設することにした。

Q 建設場所が未定であるのはなぜか。

A 栗橋行政センター建設と栗橋駅東口まちづくりの協議状況も見するためである。適切に判断する。

Q 前者の事業主は



現在のしずか館

久喜市、後者は未定である。この2つの事業を同等に扱うことは適切か。

A 当初役場を売却し原資をつくる予定だったが、法律が変更され、予定が変わった。また、しずか館の接する道路幅が狭く拡幅の必要があるので、まちづくり協議の動きも合わせて見る必要がある。

災害時の通信手段・情報伝達対策は

Q 地震、台風、豪雨等災害時、通信システムが十分機能しなくなる。避難情報等防災情報が伝達障害、救急・救助の遅れ、物資の遅れが市民の命に係わる。災害に強い通信手段が必要。衛星携帯電話の配備は十分か。停電時も作動するアマチュア無線の活用は如何か。通信連絡訓練は如何か。

A 衛星携帯電話は本庁舎・各行政センター間の連絡用に5台配備。市内アマチュア無線団体と災害時の協力を協議中。これらの訓練が適切に運用出来るよう実施している。